

介護対象者情報入力画面



介護の不安を解消できる「認知症 コミュニティ (株)」
サンプルテキストサンプルテキスト



介護対象者についての情報を入力する



認知症の診断や
介護対象者について
記入してください。

ステップ1
情報入力

ステップ2
内容確認

ステップ3
完了

◆ 認知症の診断について

認知症の診断の有無 あり なし

疾患名

発症年齢

◆ 介護対象者について

生年月日 年 月 日

性別 男性 女性

要介護度 介5 介4 介3 介2 介1 なし

職業

元々の性格

- 基本 内向的 外向的
- 協調性 高 低
- 顕示性 高 低
- 神経質性 高 低
- 執着性 高 低
- プライド 高い 高くない

教育歴

最終学歴

教育年数 (進学年齢) 年

利き手 右手 左手 両方

アルコールについて

年数 年

摂取種類 ビール、発泡酒、酎ハイ等 (5%)
日本酒、ワイン、焼酎等 (15%)
梅酒等 (25%) ウイスキー、ブレンダー等(40%)
その他 (アルコール依存症等)

摂取量

現在の飲酒 あり なし

現在使用中の福祉機器 杖 手押し車 歩行器 車椅子 なし

聴力

補聴器使用 あり なし

程度 明瞭なし

大きな声で話しかけないと会話できない

耳元でかなりの大きな声で話しかけないと会話できない

その他

ページの先頭へ戻る ▲

下書きを保存する ▶

入力内容を確定する ▶

Copyright (C) 2015 ○○○○ All Rights Reserved.

- 80 -

主介護者情報入力画面



介護の不安を解消できる「認知コミュニ」
サンプルテキストサンプルテキスト



主介護者についての情報を入力する

ステップ1 情報入力 ▶ ステップ2 内容確認 ▶ ステップ3 完了

* 主介護者について

続柄

生年月日 明治 年 月 日

性別 男性 女性

同居/別居 同居 別居

同居家族の構成
(続柄、性別、生年月日) 例) ○○、○○、○○○○

[ページの先頭へ戻る ▲](#)

Copyright (C) 2015 ○○○○ All Rights Reserved.

認証方式検討

1. はじめに

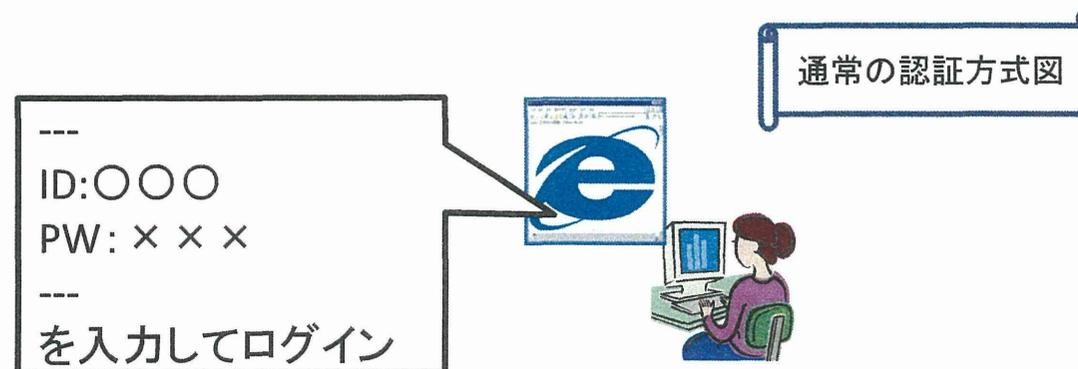
本資料は、Gシステムの認証方式について示します。

Gシステムでは、ユーザが情報を投稿するために、個人の属性を登録し、アカウントを作成してサイトへの書き込みを行います。

アカウントを作成する際には、必ず「IDとパスワード」を決定します。ユーザは、この「IDとパスワード」を用いて、ログインを行い、サイトを利用します。

ただし、情報を投稿する、または個人の属性を変更するなどの作業に、毎回「IDとパスワード」を入力するのはユーザに負担となることがあります。

このため、以降ではアカウントを作成後に「IDとパスワード」を入力せずにサイトを利用できる手段について検討します。



認証方式検討

2. 認証方式の例

下表に代表的な認証方式の例と、概要を示します。なお、認証方式には他にもありますが、以下に示したものは、**入力の手間を削減するという観点での認証方式**を列挙しています。(よって、ワンタイムパスワードや多段階認証などの方式は除外しています)

認証方式	概要
端末認証方式	MACアドレスなど端末を特定できる情報を元に本人を特定する
生体認証方式	指紋や静脈、虹彩など、本人の身体的な特徴を照合することで本人か否かを判断する
Cookieによる認証方式	ログインに使用するID/PWをCookieにより持ち回り本人を特定する

注意)上記に示した「概要」は、一般的な例示であり、製品などによってはことなる方式のことを示すこともあります。

認証方式検討

3. 各認証方式の説明

1) 端末認証

端末認証は、端末(ユーザ)を特定でき、入力の手間を省くことが可能になります。以下にメリット/デメリットを列挙します。

メリット	デメリット
ID/PWなしで認証は可能で、ユーザの作業軽減にはつながる。	端末認証のみでは、特定のユーザを識別して認証することができない。 (不正ユーザがいた場合でもログイン可能)
(認証鍵を配布するようなケースもあるが、)ユーザの負担なく構築可能。	ActiveXなど、ブラウザからクライアント端末へのアクセスを行いマシンの情報を吸い上げる仕組みが必要となる。
	マシンが変更された場合に、再登録の処理が必要となる。

社内イントラネットなど、閉じられたネットワークで利用されることは多いですが、端末の情報を吸い上げるなどのリスクもあり、各家庭などの端末で利用するサイトの認証には不向きであると判断しております。

認証方式検討

3. 各認証方式の説明

2) 生体認証

生体認証は、生体(指紋や静脈)を使用しユーザを特定でき、入力の手間を省くことが可能になります。以下にメリット/デメリットを列挙します。

メリット	デメリット
ID/PWなしで認証は可能で、ユーザの作業軽減にはつながる。	指紋、静脈いずれにせよクライアント側に機器が必要で、一般サイトの認証に用いるにはコスト面で難易が高い。
セキュリティ面では高く、なりすましなどのことは発生しない。	ActiveXなど、ブラウザからクライアントの認証情報を取得する仕組みが必要となる。 サーバ側で、個人の生体情報を持つ必要がある。

病院施設のみが使用するサイトであれば、向いている認証方式であるが、各家庭などの端末で利用するサイトの認証には不向きであると判断しております。

認証方式検討

3. 各認証方式の説明

3) Cookieによる認証

Cookieによる認証は、ブラウザ内の情報を使用しユーザを特定でき、入力の手間を省くことが可能になります。以下にメリット/デメリットを列挙します。

メリット	デメリット
ID/PWなしで認証は可能で、ユーザの作業軽減にはつながる。	端末を共有している場合には、なりすましなどが行える。(ブラウザの設定によりCookieの制御可能)
広く一般に普及しており、簡単に開発を行い、ユーザの利便性も高い。	通信傍受などにより、ID/PWを盗聴され悪用されることがある

CookieにID/PWをもつことで、ログインの手間を省くことができ、ユーザの利便性は上がります。セキュリティに若干の懸念がありますが、各家庭で使用する端末では、通信傍受などのリスクも低く、また「クックパッド」「安心介護」のようなコミュニティサイト、「楽天」「Amazon」のようなショッピングサイトでも利用されている技術であり、利便性が高いと判断しております。

認証方式検討

4. まとめ

認証方式のまとめ(比較)です。

事例	端末認証	生体認証	Cookie
導入コスト	△:※(方式による)	×:高	○:低
なりすまし	×:低	○:高	×:低
利便性	○:高	×:低	○:高
実装難易	△:中	×:高	○:低
導入事例	×:低	△:中	○:高
端末変更後の対応	△:再登録	○:無	○:再ログイン

生体認証は、使用ユーザに機器を提供しなければならないので、現実的ではありません。

端末認証は、不正アクセス防止などに強みはありますが、端末を使いまわしているような環境では、Cookieと変わりありません。また、各家庭などの端末でも利用するサイトではマシン情報を抜き出すことはやるべきではありません。

本システムで扱う情報が、お金や個人情報に深く入り込むもの(住所、電話など)ではないことから、**Cookieを使用した形で対応させていただこうと考えております。**

GP・BP 自動抽出アルゴリズム構築研究

担当責任者 鬼塚 真

大阪大学大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻 教授

研究要旨：

目的：本研究では、認知症の患者の介護者が登録した介護情報の中から、有用なノウハウ（GP: good practice）を自動抽出することを目指している。本年度は、ノウハウの自動抽出に関して既存の分析ツールの有効性を調査し、また、介護情報に関する分析技術の基礎検討を行った。

方法：（１）疾患別重症度別ガイドブックを対象として、自然言語処理と分析機能を有する text mining studio を購入してその有効性を検証した。また、（２）時系列変化、乖離の大きい例外データの検出、大量データの分析に関する基礎技術の検討を行った。

結果：（１）に関しては、統計的データ処理、単語の頻度分布分析、単語の共起関係などのデータの傾向分析ができることを確認できたが、どのようなタイプの患者さんにどのような介護が有効かという GP 抽出には課題が残った。（２）に関しては、時系列変化、乖離の大きい例外データの検出、大量データの分析に関して介護情報以外のデータで検証を行い、有益な知識の分析が可能であることを確認した。まとめ：ノウハウの自動抽出に関して既存の分析ツールの有効性を調査し、また、介護情報に関する分析技術の基礎検討を行った。今後は、介護情報から GP を抽出するにあたっての検討を進める必要がある。

A. 研究目的

わが国では現在認知症患者が 450 万人以上おり、増加しつつある状況にある。このため、認知症患者を介護する仕事に従事する介護者の増員と介護のノウハウの整備は喫緊の課題である。しかし、現状では介護に関するノウハウが整備されておらず、介護者は成功や失敗を繰り返しながら介護に取り組んでいる状況にある。介護に関する有効なノウハウは、専門家による書籍を利用するか、あるいは情報共有サイトにより共有する仕組みが増加しつつあるが、前者の書籍の場合は介護情報の種類や量に限界があり、また後者の情報共有サイトの場合は雑多な情報の中から個々の認知症患者の進行度や介護環境に適したノウハウを探すことが困難であるという問題がある。

上記の背景を鑑み、本研究では情報共有サイトの取り組みを発展させ、収集した介護情報に対してビッグデータを分析する技術を適用することで、有効なノウハウ（GP: good practice）および有効ではないノウハウ（BP: bad practice）を自動抽出することを狙いとする。このように自動抽出した GP や BP の中から、認知症患者の進行度やケア環境に適した GP を介護

者に提示することで、介護者が適切な介護を適切なタイミングで実施することができると考えられる。

本年度は、介護に関するノウハウである GP と BP を自動抽出する課題に対して、自然言語処理と分析機能を有する text mining studio [1] を購入してその有効性を検証した。また、介護情報に関する分析技術の基礎検討として、時系列変化、乖離の大きい例外データの発見、大量データの分析に関する検討を行った。

B. 研究方法

（１）介護に関するノウハウの自動抽出

認知症の患者の方を介護している介護者が登録した介護情報の中から GP と BP を自動抽出する課題について、疾患別重症度別ガイドブック [1] を入力データとして、自然言語処理と分析機能を有する text mining studio を適用して、本ツールの有効性を検証した。

text mining studio は NTT データ数理システムが販売している製品であり、主な分析方法として、単一単語の頻度分析、複数単語の共起頻度分析と可視化（ことばネットワーク）、評判抽出、クラスタ分類（文書分類）などの機能を有している。つまり、入力となる文章を解析して、